Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka 2018-09-15

APM news 198

秋山孝ポスター美術館 長岡

国の登録有形文化財・長岡市都市景観賞受賞・金庫扉と雁木のある美術館

〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第41回美術館大学　5月12日(土)pm3:00～pm4:30／参加者:42名／講師:秋山孝

「秋山孝の神秘４『印刷すること』『手描きすること』について1」2

【原画表現から印刷メディアの自立/時代への影響力】

1960年代後半になると、社会への不満が募った若者たちによる学生運動が勃発した。その発端がパリ五月革命（1968年5月）だ。大学制度の改革を求めたパリ大学の学生と大学側が対立し、学生と警官隊の激しい衝突に端を発し、フランス全土に広がった社会変革を求める大衆運動である。日本でも東大紛争(1968-1969)や日大紛争(1968-1969)などの学園紛争が起こっていった。秋山の通う多摩美術大学でもそれは起こった。当時は授業どころではなかったそうだ。そんな争いの場でもグラフィックは活躍した。学生たちはスローガンをかいたポスターを印刷し大量にばら撒き、団結力を高めた。劣悪な環境で印刷されたそれらのポスターは、決して美しいものではなかったが、強いメッセージ性を持ち、チープさの中に力強さと魅力があった。他にも、中国で起こった文化大革命（1966-1977）で毛沢東を讃えるプロパガンダに利用されるなど、ポスターというメディアは時代の動きと共にある。今はインターネットを使って簡単に素早く情報のやりとりができるが、1960年代の激動の時代において重要な役割を担っていた印刷物の持つ魅力、能力を秋山はその渦中で見てきた。そして、その力を今でも信じている。

憧れのアーティストについて話をする秋山の姿は、目がキラキラと輝き青年に戻っていた。当時はレコードを買うとポスターが付いてきた。秋山青年はそのポスター欲しさにレコード屋に通ったという。その時の熱い想いが秋山のポスターへの情熱に火を付け、それが現在も燃え続けているのだろう。（たかだみつみ・APM学芸員）